

弘前の聖愛中学・高校に行ってきました!!

6月25日～27日に、弘前の弘前学院聖愛中学高校に行ってきました。26日は教職員対象の修養会での講演、27日は創立記念礼拝でのメッセージを担当しました。

私は生まれてすぐから聖愛中学高校の生徒さんのお世話になっていたので、とても懐かしさと嬉しさを感じながら奉仕させていただきました。お世話になっていたというのは、私の両親が東京の神学校を卒業し、初めて赴任した教会が、弘前の隣町の藤崎町の日本基督教団藤崎教会でした。そこには聖愛中高生がたくさん来ており、教会で産婆さんに取り上げられた私は、聖愛の生徒さんに、生まれてすぐからかわいがられていたようでした。また、父は聖愛の時間講師として聖書を教えに行っていたとのことでした。

実は聖愛中高と遺愛女子中高は創立当初から、とても深い関係があります。遺愛2代目の校長ハンプトン先生は、聖愛の2代目・4代目の校長でした。遺愛3代目の校長ヒューエット先生は聖愛7代目の校長、遺愛4代目の校長デカルソン先生は聖愛3代目の校長、遺愛10代目校長赤城泰先生は、聖愛21代目の校長でした。

初期の宣教師の先生方は、北米メソジスト監督教会が設立したW.F.M.S（米国婦人外国伝道協会）から派遣されており、J・ウエスレーのメソジスト運動の影響を強く受けていました。メソジスト派は「自らの神の恵み体験を重んじ、愛と奉仕による社会事業、教育活動に献身」することを特色としていました。

そのため、遺愛の校訓は『信仰・犠牲・奉仕』ですし、聖愛の教育目標は『信仰を求め、正義・愛・献身を体現する心豊かな人間の育成』で、『献身』とは、自分を「犠牲」にしても他者のために「奉仕」という意味があり、教育理念は両校ともほぼ同じと言っても良いのではないかと思います。

創立記念礼拝では、初期の宣教師が重なることを伝えつつ、両校が今まで行ってきた奉仕の業について紹介し、最近の取り組みにも言及しました。

聖愛中高が2000年に共学化したためか、両校の交流は久しく途絶えて（部活同士の交流は時々ありました。）いましたが、再び交流できればと強く思いました。

2024年6月30日



弘前学院宣教師館（1906竣工）



遺愛学院宣教師館（1907竣工）